



2017 年 7 月

プレスインフォメーション

新型 Audi A8

要約版	2
新型 Audi A8 のもっとも重要な情報	
Facts and Figures	7
製品ハイライト	
詳細版	11
新型 Audi A8 に関して知っておくべき全ての内容	
▶ SHAPE: エクステリアデザイン、インテリアデザイン、ライト	11
▶ SHIFT: ドライブトレイン、サスペンション、Audi AI	15
▶ SENSE: コネクティビティ、アシスタンスシステム、オペレーション、インフォテインメント	25
▶ SPACE: ボディ、インテリアコンセプト	34



要約版

新型 Audi A8：ラグジュアリークラスの未来

新型 Audi A8 は、ラグジュアリークラスの未来を提示しています。第 4 世代に進化したこのフラッグシップモデルは、新しいデザイン言語、革新的なタッチスクリーン操作コンセプト、そして体系的な電動化が進められた駆動システムにより、アウディのスローガン「Vorsprung durch Technik」（技術による先進）を反映した、アウディブランドの新たなベンチマークとなっています。さらに、新型 Audi A8 では、市販モデルとして世界で初めてとなる高度な自動運転システム（レベル 3）が開発されました。アウディでは 2018 年以降段階的に、パーキングパイロット、ガレージパイロット、トラフィックジャムパイロットといった先進的自動/自律運転機能を採用していく方針です。

スタイリッシュなラグジュアリーサロンのお手本：エクステリアデザイン

新型 Audi A8 は、独自のスタイルを確立したクルマであり、アウディデザインの新しい時代の幕開けを告げるクルマです。幅広い、直立したシングルフレームグリルが備わったフロントエンド、流麗にして力強いボディは、アウディブランドのコアバリューであるスポーティで洗練され、かつ先進的なスタンスを象徴しています。新型 Audi A8 には、スタディモデルの Audi prologue により予告されたスタイルが、市販モデルとして見事に昇華されています。このラグジュアリーセダンの力強い存在感は、全長 5.17m の標準仕様も、13cm ホイールベースが長い Audi A8 L も変わりありません。

アウディブランドは今日、スポーツ性のアピール、軽量設計、quattro フルタイム 4WD システムなどにより高く評価されていますが、新型 Audi A8 のデザインも、これらの価値を反映したものになっています。バランスの取れたプロポーションは、4 つのホイールに同等の比重を置いており、ホイールアーチの上の力感溢れる抑揚によって、ビジュアル面でも quattro ドライブが示唆されています。サイドビューでは、アップライトなフロントエンドと、なだらかに傾斜したリヤエンドを組み合わせ、視覚的緊張感を演出しています。フロントにアウディレーザーライトを用いた HD マトリクス LED ヘッドライト、リヤに OLED テクノロジーを用いたテールライトと LED ライトスリップを採用した新型 Audi A8 は、昼だけでなく夜間でも、独自のアイデンティティを主張します。また、それらの照明システムにより、ドライバーがクルマに近づいたり離れたる度に、ダイナミックなライトの動きを応用したユニークなプレゼンテーションが展開されます。

ラグジュアリーなラウンジ：インテリア

新型 Audi A8 のデザインのメインテーマは「自由」です。それによってこのクルマは、広くて贅沢なラウンジにも似た印象を与えます。先代モデルの Audi A8 と比較すると、標準、ロングバージョンともに、全長は拡大しています。装備と素材の選択肢は非常に広範囲になっており、シートのパーフォレーション（通気孔加工）からエアベントの電動開閉シャッターといった細部に至るまで、エクスクルーシブなクオリティが追求されています。



新型 Audi A8 のなかでも特別な格式が与えられたシートが、Audi A8 L の後席右側にオプション設定されたリラクゼーションシートです。これには、4 つの異なる調整機能とフットレストが選択できる仕組みになっています。このシートの乗員は、フロント助手席のシートバックの背に搭載され、多様なセッティングが可能なフットレストに足を乗せて、温めたりマッサージしたりすることができます。ヘッドレストも快適性を特に重視した新しいデザインが採用されています。後席の乗員はまた、専用の独立した操作ユニットを使って、アンビエントライトや、新設定の HD マトリクス読書灯、シートマッサージなどの機能をコントロールしたり、プライベートな電話をかけたりすることができます。リヤシートのセンターアームレストには、後席用のリモートコントロールユニットが設置されています。スマートフォンサイズの OLED ディスプレイを採用したこのユニットは、取り外して使用することもできます。

指先の操作とその反応：操作系

新型 Audi A8 のインテリアデザインでは、細心の注意を払いながらもシンプルなデザインが表現の基本になっています。インテリアは、すっきりとした構成になっていて、真っすぐな水平のラインが整然とした印象をさらに強調しています。アウディは、徹底的に新しい操作方式を導入することで、持ち前の高い品質基準を、デジタルの時代にも展開してみせました。新型 Audi A8 のインテリアからは、従来のモデルの特徴でもあったロータリープッシュボタンやタッチパッドは姿を消しています。インストルメントパネルからも、ボタンやスイッチ類がなくなりました。ここで中心となるのは、10.1 インチのタッチスクリーン式ディスプレイですが、これもスイッチオフしたときは完全に暗くなって、グロスブラックの周囲のパネルのなかに溶け込んでしまいます。

クルマのドアを開けると、ユーザーインターフェースがすぐさま立ち上がります。ドライバーは、大型ディスプレイに指で触れることで、インフォテイメントシステムの操作を行います。センタートンネルコンソールにある 2 番目のタッチスクリーンは、エアコンディショナーと快適機能にアクセスするためのもので、同時にここからテキストの入力も行います。そのとき、ティプトロニックの幅広いレバーの上に手首を乗せたまま、例えば、検索のための文字入力ができるなど、快適にタッチスクリーンの操作を進めることができます。2 つのディスプレイのうちどちらかが作動したときには、チャイムとクリック感で、そのことがドライバーに伝えられます。ガラス調の操作ボタンも同様の反応を示します。音と触感によるフィードバックの組み合わせ、また、手を振る動作など共通のタッチジェスチャーを利用することで、新しい MMI タッチレスポンスは、非常に安全で、直感的に行えて、さらに素早い操作が可能になっています。

新型 Audi A8 はまた、乗員の言葉にもインテリジェントに反応します。ドライバーは、クルマに搭載された数多くの機能を、日常的な言語でボイスコントロールを介して、操作することができます。目的地やメディアに関する情報は、車載データのほか、外部のクラウドから、LTE のスピードで取り寄せることができます。Audi connect オンラインサービスには、新たに道路標識の認識や危険（ハザード）情報などが加わりました。これはアウディに乗る人々のスワームインテリジェンス（群知能）を活用した、革新的な Car-to-X サービスです。

ナビゲーションシステムも大幅に進化して、新たな機能が追加されました。それは例えば、走行したルート情報を元に、自己学習していく機能です。これにより、ルート検索の機能が、よりインテリジェントなものになりました。マップに関しても、ヨーロッパの主要都市については詳



細な 3D モデルが用意されるようになり、より現実に近いグラフィックで確認できるようになっています。

そうした機能のコントロールハブの役割を果たしているのが、モジュラーインフォテイメントプラットフォームの最新バージョン MIB 2+です。これには、アウディのベンチャーパートナーである NVIDIA 社が開発した最新鋭の Tegra KI プロセッサが組み込まれています。Tegra KI チップはもうひとつ、アウディバーチャルコックピットにも搭載されていて、フル HD で 1,920×720 ピクセルの高解像度を誇るデジタルインストルメントパネルのグラフィックを制御します。

また、バング&オルフセンのアドバンストサウンドシステムは、これまででない、音響面での上下方向の奥行きを表現することに成功しています。今回から、リヤシートの乗員も、そうした表現を含めた魅力的な 3D サウンドを堪能できるようになりました。そこでは、コンサートホールで録音されたままの音楽が展開されます。これには、アウディがフラウンホーファー研究所と共同で開発したアルゴリズムが採用されています。操作性と音質、接続品質の面で新たなスタンダードといえるボイス オーバーLTE を備えたアウディフォンボックスにより、利便性の面でも、新たな基準が提示されています。

世界初：自動運転機能付きの Audi A8

新型 Audi A8 には、市販モデルとしては世界で初めての高度な自動運転機能が開発されました。Audi AI トラフィックジャムパイロットは、中央分離帯のある比較的混雑した高速道路を 60km/h 以下で走行しているとき、ドライバーに代わって運転操作を引き受けます。センターコンソールにある AI ボタンを押すことで、この機能が有効となります。

トラフィックジャムパイロットは発進、加速、ステアリング、ブレーキの各操作に対応します。ドライバーはそうした操作を、注意して見守っている必要はありません。ステアリングホイールから手を放したままでも大丈夫ですし、その国の法律で許されていれば、車載のテレビを視聴するなど、運転以外の行為を行うこともできます。システムが機能の限界に達した場合には、すぐさまドライバーに、運転操作に戻るよう通知がなされます。

技術的な視点から見ても、トラフィックジャムパイロットは革命的なテクノロジーといえます。自動運転中は常時、セントラルドライバーアシスタンスコントローラー (zFAS) が、様々なセンサーからのデータを照らし合わせることで、クルマの周辺の状況を導き出しています。レーダーセンサー、フロントカメラ、超音波センサーに加えて、今回自動車分野では初めて、レーザーセンサーも採用されています。Audi AI トラフィックジャムパイロットの導入には、各国における法的枠組みを明らかにし、各々の市場におけるシステムの適用とテストが必要となります。アウディブランドの高い品質基準は、高度に自動化された運転の分野でも同様に適用されます。さらに、承認手続きの範囲とそのタイムスケールを世界中で遵守する必要があります。そのため、アウディでは、市販モデルにトラフィックジャムパイロットを導入するにあたって、段階的なアプローチを採用していきます。

Audi AI リモートパーキングパイロットと Audi AI リモートガレージパイロットは、クルマを自律的に操作して、パーキングスペースもしくはガレージに導いてくれるとともに、そこからクルマを出すことも自動で行ってくれます。そのときドライバーは、車内にいる必要はありません。操作のスタートは、新開発の myAudi アプリを使って手持ちのスマートフォンから行います。パーキング操作を継続する時、Audi AI ボタンを押し続けると myAudi のアプリに、車載の 360° カ



メラからの映像が映し出されます。操作が完了すると、ティプトロニックが自動的に P のポジションに入り、エンジンとイグニッションがスイッチオフされます。

新しい次元：サスペンション

車両全体におよぶ革新的なパッケージと共に、サスペンションは物理的な限界に挑戦しています。その革新技術の 1 つめが、ダイレクトでスポーティなステアリングと優れた安定性を兼ね備えたダイナミックオールホイールステアリングです。前輪のステアリングレシオは、速度に応じて変化します。その一方で、後輪は、速度域に応じて、ステアリングと同じ向き、あるいは逆向きに操舵されます。スポーツディファレンシャルと組み合わせることにより、ハンドリングはさらにダイナミックで精密なものになります。スポーツディファレンシャルは、新型 Audi A8 に標準装備される quattro フルタイム 4WD システムを補完して、後輪間に駆動トルクをアクティブに配分します。

2 つめの新しい技術は、Audi AI アクティブサスペンションです。ドライバーによる設定及び運転状況に対応して、Audi AI アクティブサスペンションは、電動アクチュエーターを働かせて、個々のホイールを持ち上げたり下げたりします。この柔軟な対応力により、ラグジュアリーセダンならではのスムーズな乗り心地からスポーツカーのダイナミックなハンドリングまで、幅広い走行特性が得られるようになっています。また、側面衝突に際しては、プレセンス 360°のシステムのサポートにより、素早い反応で衝撃を受ける側のボディを持ち上げることで、乗員への衝撃を緩和します。この革新的なサスペンションシステムは、作動するためのエネルギーを 48 ボルト電源から得ています。アウディは、48 ボルトのシステムを、新型 Audi A8 のすべてのモデルに、主電源として初めて採用しました。新型 Audi A8 用に特別にリファインされたエアサスペンションとともに、新しいアクティブサスペンションは、かつてないドライビング体験の創出に貢献しています。

マイルドハイブリッドと e-tron：ドライブシステム

ヨーロッパでの発売時点で、新型 Audi A8 には、210kW (286hp) の 3.0 TDI と 250kW (340hp) の 3.0 TFSI の 2 タイプの V6 ターボエンジンが設定されます。その後、2 タイプの 4ℓV8 –320kW (435hp) の 4.0 TDI と 338kW (460hp) の 4.0 TFSI が追加される予定です。さらに、エクスクルーシブなトップエンジンとして、排気量 6.0ℓ の W12 ユニットも設定されます。

5 タイプすべてのエンジンに、48 ボルトの電源システムとベルト駆動式のオルターネータースターター (BAS) が備わります。このマイルドハイブリッド テクノロジー (MHEV：マイルドハイブリッドエレクトリックベークル) により新型 Audi A8 は、エンジンを休止させたまま無負荷でかなりの距離走ること (コースティング) が可能になっており、そこからエンジンを再始動するときも非常にスムーズです。エンジンのスタート/ストップ機能が、幅広い走行条件で有効となっており、エネルギー回生の量も最大 12kW と、大きな値が得られるようになりました。その結果、低燃費で定評のある各エンジンの効率率はさらに向上しています。MHEV を採用しない場合と比較して、実際の走行条件で、100km 走行あたり 0.7ℓ の燃料消費が削減されています。



パワフルなプラグインハイブリッドドライブを採用した Audi A8 L e-tron quattro も、後日導入する予定です。このモデルは、3.0 TFSI と強力な電気モーターの組み合わせにより、330kW (449hp) のシステムパワーと 700Nm のシステムトルクを発生します。リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電力だけで、約 50km の走行を可能にしています。リチウムイオンバッテリーの充電には、オプション設定された新しいデバイスであるオーディワイヤレスチャージングを利用することができ、ガレージの床にこの受電パッドを敷くことで、非接触のまま、車載のレシーバーコイルを介し、3.6kW のパワー出力で充電が行なうことができます。

ネッカーズルム工場生産される新型 Audi A8 及び Audi A8 L は、2017 年晩秋からドイツ市場で販売が開始されます。Audi A8 のベース価格は 90,600 ユーロ、Audi A8 L のベース価格は 94,100 ユーロからとなります。



Facts and figures

新型 Audi A8

Shape, Shift, Sense, Space. 新型 Audi A8 のあらゆる特徴は、この 4 つの言葉に集約することができます。Shape は、見て触れて感じるクルマの美的質感に関わるもので、これにはエクステリアとインテリアのデザイン、ライティング、カラーと素材、製品が作られるときの伝統的なクラフトマンシップなどが含まれます。Shift は、新型 Audi A8 がなし遂げた技術的進化を解説しています。これには、エンジン、パワートランスミッション、サスペンション、及び、Audi AI の名称の下に束ねられたトラフィックジャムパイロット、(リモート)パーキングパイロット、リモートガレージパイロットといったテクノロジーに関する情報が含まれます。

Sense に集約されるのは、コネクティビティに関する内容です。これには、ボイスコントロールを含めた MMI タッチの新しい操作方式から、センサー、制御ユニットからアシスタンスシステムにまで使われるようになった電子的な知能に関する情報などが含まれます。インフォテイメント分野の Audi connect キーとパーソナライゼーションは、もうひとつのハイライトといえるでしょう。最後の **Space** は、エクステリアとインテリアの寸法の設定と、室内のエアクオリティ、シート、音響、電話のための様々な便利・快適機構などに関する情報です。

Shape

- エクステリアデザイン: アウディの新しいデザインランゲージを採用した最初のモデル。流麗かつ筋肉質のボディと、格式と威信を湛えた幅広く垂直に切り立った幅広いシングルフレームグリル。
- ホイールの上の力感溢れた膨らみにより quattro ドライブを強調
- わずかに傾斜が付けられたリヤエンドには幅一杯にライトストリップを装着
- 3 つの新色を含めた合計 12 のエクステリアカラー
- ライト: 最新世代の HD マトリクス LED ヘッドライトをオプション設定、アウディレーザーライティング、均質な光を発する OLED テールライト
- ドアをロック、アンロックする度にヘッドライトとテールライトでダイナミックな光のプレゼンテーションを展開、エンジン始動時にはインテリアのライトもプレゼンテーションを展開し、特別なチャイムも追加
- インテリアデザイン: クリアで端正なデザイン手法、引き算の美学、アーキテクチャーと操作方法の調和
- Audi A8 L のインテリアに心地よい光を呼び込む大型の 2 分割パノラマサンルーフ
- 落ち着いた面デザイン: 視覚的に周囲のパネルと完全に一体化した 10.1 インチスクリーン、スイッチの数を最小化しエアベントには電動シャッターを設定
- アンビエントライト、シートバックのコンツァーライティング、マトリクス LED 読書灯
- 幅広い選択肢が用意された本物の自然に近い素材、先進的な色づかい、職人氣質の丁寧な仕上げ、コンフォートヘッドレストに採用された新しい上質な革素材、最上級の装備を提供するアウディデザインセレクション



Shift

- パワートレイン：2つのV6ターボエンジン（販売開始時から設定）210kW（286hp）の3.0 TDIと250kW（340hp）の3.0 TFSI
- 2つのV8ターボエンジン（少し遅れて追加予定）：320kW（435hp）の4.0 TDIと338kW（460hp）の4.0 TFSI、さらに最上位のエンジンとして430kW（585hp）のW12ユニットも追加予定
- すべてのエンジン仕様に48ボルトの主電源とベルト駆動式オルタネータースターターを用いたマイルドハイブリッドのシステムを採用。Audi A8 L e-tron quattroはエンジンを休止したままのコースティング（無負荷運転）を可能にし、幅広い運転条件でスタート/ストップ機構を稼働させ、エネルギー回生機能も強化、エフィシエンシーアシスタンスの働きにより経済的な運転スタイルをサポート
- 3.0 TFSIを除くすべてのエンジンにアクティブエンジンマウントを採用して振動を吸収、4.0 TFSI、3.0 TFSI e-tron及びW12の各モデルにはアクティブノイズキャンセレーション（ANC）も搭載
- 330kW（440hp）のシステムパワーを発揮してフル電動モードで約50km走れるAudi A8 L e-tron quattroの発売時には、3.6kWでの非接触充電機構を標準装備、充電ステーション（パッド）をオプション設定
- すべてのエンジン仕様に8速ティプトロニックとquattroドライブを標準化。ティプトロニックは、ギヤシフト機構を改良してコースティング終了後のクラッチ接続を最適化
- サスペンション：前後サスペンションともに精密設計の5リンクシステムを採用
- ダイナミックオールホイールステアリング（4輪操舵）をオプション設定
- 希望によって、よりダイナミックなハンドリングを実現する、スポーツディファレンシャルも装着可能
- 油圧式可変ダンパーを備えたアダプティブエアサスペンションを標準装備、車高は4段階に調整可能
- 完全アクティブ制御のAudi AIアクティブサスペンションをオプション設定、個々のホイールを独立制御して快適性重視からスポーティなハンドリングまできわめて幅広いドライビングプロファイルを提供、側面衝突に際しては、プレセンス360°のシステムと連携してボディを持ち上げてパッシブセーフティを改善
- 新バージョンに進化したエレクトロニックサスペンションプラットフォーム（ESP）により、各センサーからの情報を一括制御してドライビング状況も常時把握
- AUDI AI: Audi AIの名称の下に統合された革新的アシスタンス機構の数々。中央分離帯が備わった高速道路などで混雑した状況下、60km/h以下で運転している場合に運転操作を完全に代行する高度な自動運転機能「トラフィックジャムパイロット」を市販モデルで初めて採用。一方、パーキングパイロット、ガレージパイロットはリモート機能によるドライバーなしの自動パーキングを実現



Sense

- コネクティビティ: 複数のセンサー、カメラと自動車分野では初採用のレーザースキャナーを組み合わせることで、周囲 360°のモニタリングを実現
- センtral ドライバー アシスタンス コントローラー (zFAS) でデータを常に照合
- オプションのミッドレンジレーダーの助けにより交差するクルマを発見する新開発の交差点アシストのほか、操舵アシスト、カーブ (縁石) ワーニングなど、合計 41 種類ものアシスタンスシステムを設定した新型 Audi A8 はこの分野のリーダー
- 進化したモジュラーインフォテイメントプラットフォーム、MIB 2+、クアドコアのメインプロセッサと 192 コアのグラフィックプロセッサを備えた NVIDIA の Tegra K1 チップを搭載して、第 1 世代の MIB の 50 倍の演算速度を実現
- 世界最先端に行く Audi connect オンラインサービス: 道路標識認識機能やハザード情報といった Car-to-X サービスを新たに提供、myAudi アプリを総合的なアクセスポイントにして使い勝手も向上
- 最大 5 人のユーザーまで対応する Audi connect キー、認証は Android のスマートフォン (NFC コミュニケーション) から取得
- 6 人のユーザープロフィール及びひとりのゲストプロフィールに関し約 400 の機能のパーソナライゼーション (個人向け設定) が可能
- 新しい MMI タッチレスポンスによる操作及びディスプレイ方式: 2 つのタッチスクリーン、スイッチストリップ (オプション)、触感と音によるフィードバックを提供する照明スイッチモジュール、様々な文字言語及び複数の指での書き込みも読み取るインテリジェントなハンドライティング入力機能
- 車載とクラウドの検索情報をインテリジェントに組み合わせたナチュラルボイスコントロール、会話を通じて自己学習する機能により聞き取り能力が徐々に進化
- 主要な機能の操作はステアリングホイールから可能
- フル HD の解像度 (1,920x720 ピクセル) を誇る新しいオーディオバーチャルコクピット
- ヘッドアップディスプレイをオプション設定
- ドライバーの好みをベースに自己学習機能を備えたナビゲーションシステム、高度な知能に基づくルートプランニング、精密な 3D の都市モデル、年に 4 回のアップデート

Space

- ボディ:
 - 全長: Audi A8: 5,172mm (従来型比+37mm)
Audi A8 L: 5,302mm (従来型比+37mm)
 - 全幅: Audi A8/ Audi A8 L: 1,945mm (従来型比-4mm)
 - 全高: Audi A8: 1,473mm (従来型比+13mm)
Audi A8 L: 1,488mm (従来型比+17mm)
 - ホイールベース: Audi A8: 2,998mm (従来型比+6mm)
Audi A8 L: 3,128mm (従来型比+6mm)
- カーボン (リヤパネル)、マグネシウム (ストラットタワーバー)、熱間成形スチール (キャビン) 及びアルミニウムをインテリジェントに組み合わせて構成したアウディスペースフレーム。従来型比剛性を 24%アップ、ノイズレベルも改善



- インテリアコンセプト： 広々とした感覚、32mm 拡大した室内長、より余裕あるヘッド&レッグルーム、従来型より広げられたドアオープニング
- ラグジュアリークラスならではの快適性：電動ドアオープナー、マッサージ機能をさらに改善し、コンフォートヘッドレストに非常にソフトな革素材を使った新設計のシート、ヒーター付きのヘッドレストとマッサージ機能を備えたオプションのマルチアジャスタブル リラクゼーションシート
- ドアのアームレスト、フロントとリヤのアームレスト、及びステアリングホイールにヒーターをオプション設定
- マトリクス LED 読書灯を含めた様々な機能をコントロールできる後席用リモートコントロールユニット
- リヤシートの初の 3D サウンドを採用、最高の通信クオリティを誇る電話機能
- エアクオリティを改善するための 2 つのフレグランス、イオン化装置を含めたエアクオリティパッケージ
- 後方から太陽が照り付けるときでもエアコンの働きを最適化するためにリヤシェルフに追加したサンセンサー



詳細版

第 4 世代の Audi A8 目指すは新しい時代

アウディはフラグシップサルーンの Audi A8 を全面的に設計し直して第 4 世代に進化させました。新しいアウディサルーンのスタイルを明確に示したデザイン、数々の画期的なサスペンション制御機構、タッチスクリーンを多用した新しい操作方式、そして最上クラスの快適性。新型 Audi A8 は、新しい時代の「Vorsprung durch Technik」（技術による先進）を体現したラグジュアリーセダンです。革新技術の頂点に位置するのは、世界に先駆けて開発された Audi AI トラフィックジャムパイロットです。

SHAPE

スタイリッシュなラグジュアリーサルーンのお手本：エクステリアデザイン

スポーツ性のアピール、軽量設計、quattro。新型 Audi A8 のデザインには、このようなアウディブランドのコアバリューが、完璧に反映されています。アウディブランドの特徴であるスポーティエレガンス、洗練さ、そして先進性を体現したこの新しいフラグシップモデルは、アウディデザインの新しい時代の幕開けを告げるクルマでもあります。

フロントエンドでは、アップライトな 6 角形のシングルフレームグリルが、圧倒的な存在感を放っています。低く配置された幅の広いこのグリルには、フロントセクションのすべてのラインと面がつながっています。とくにヘッドライトの造形は、シングルフレームグリルと完全に調和しています。オプションの HD マトリクス LED ヘッドライトを装着すると、デイトタイムランニングライトが、グリル上端の細いパネルと、視覚的につながっているように見えます。セグメントに分割されたライトシグネチャーが、ヘッドライトを垂直方向に分断しており、全体としてエレガントな表情を構成しています。左右のエアインレットの周りには、厚いクロームのフレームが設置され、中央の細いインレットが両者を結ぶ役割を果たしています。

新型 Audi A8 のスポーティなキャラクターを決定的なものにしているのが、クーペのようなシルエットを持ったサイドビューです。ここでは、フロントとリヤホイールに同等のアクセントを置いたプロポーションが採用されており、ホイールの上の力感溢れた膨らみにより、quattro の DNA が示唆されています。低いショルダーラインが、ヘッドライトの端から始まって、前後のドアハンドルを経由しつつ、テールライトまで伸びています。ウインドーの下端部分を走る真っすぐなボディパネルの折れ目も、クルマの長さを強調する働きをしています。サイドシルのラインがリヤに行くに従って上昇するのも、典型的なアウディのスタイルで、新型 Audi A8 にラグジュアリークラスのクルマに相応しいエレガントなダイナミズムを与えています。

リヤエンドは、進行方向に対し若干角度が付けられており、そのため新型 Audi A8 は、静止していても今にも走り出しそうな印象を与えます。リヤエンド全体を横断する形で、細いライトが取り付けられています。クロームストリップを埋め込んだことで、そこからは常時光が発せられて



います。その両端にはセグメント化された OLED が接していて、独特のライトシグネチャーが描き出されます。バンパー下部に設置されたクロームストリップは、台形をしたエグゾーストシステムのトリムと一体となっています。

ボディカラーは、新色のテッラグレー、ヴェスヴィアスグレー、セビルレッドを含めて合計 12 色が設定されます。インパラベージュとナヴァーラブルーは、Audi A8 シリーズでは初採用のカラーです。さらに、アウディエクスクルーシブのプログラムを通じて、独自に選択した特別なカラーを注文することもできます。ビジュアル面でさらに強いインパクトを求める方々のために、クロームエクステリアパッケージのオプションも用意しました。

HDマトリクスLED、レーザー及びOLED：照明システム

アウディは照明のテクノロジーとデザインの面でも、ライバルをリードする存在です。新型Audi A8においては、テクノロジーを用いて、周囲の環境とインテリジェントに調和していこうとしています。例えば、HDマトリクスLEDハイビームを組み合わせた、アウディレーザーライティングが初採用されています。レーザースポットはX字型のシャッターにより認識することができ、またブルーのアンビエントライトもアクセントになっています。垂直のセグメントを備えたデイトムランニングライトが、ヘッドライトのテクニカルなエレガンスをさらに強調しています。レーザースポットライトが有効となるのは、70km/h以上で走行している場合で、これまでのハイビームの照射距離を2倍に伸ばす効果があります。

HDマトリクスLEDハイビームの各ユニットは、それぞれ個別に制御された、合計32の小型発光ダイオードから構成されており、そこから2本の光線が発せられます。新型Audi A8では、この新しい構造のヘッドライトにより、可変制御のロービームと併せて、よりダイナミックかつ正確なライトの照射が実現しています。道路ユーザーがいる方向に対しては、ライトの照射が自動的に抑えられるため、他の人々に眩しい思いをさせることはありません。HDマトリクスLEDハイビームは、フロントに設置されたカメラからの情報を元に、精密な制御を行っています。

また、ライトの焦点を調整することで、コーナリングライトの役割も持たせています。これには、ナビゲーションデータを活用して、ステアリングを切る前から、コーナーの先を照らす機能が備わっています。交差点ライトも同様に、交差点に到着する前から点灯します。多数のLEDで構成されたウインカーもまた、最大角度90°まで、3段階でダイナミックな動きを示すようになっています。ダイナミックターンシグナルも装備されるHDマトリクスLEDヘッドライトユニットは、それぞれ138のLEDと1機の高性能レーザーダイオードを内蔵しています。革新的な自動照明システムにより、不適切な形で使用されることがなくなり、また、近接センサーとタッチスクリーンを備えた新しいライトスイッチモジュールから操作できるようにもなりました。

最新鋭のヘッドライトとともに、アウディは、きわめてスムーズな発光が得られる OLED を用いたリヤライトを、新型 Audi A8 のために新開発しました。リヤライトのモジュールは、それぞれ4つの部分に分割されて、ひとつひとつが別個に制御されますが、そこにきわめて薄い OLED を、浮かせた状態で設置しています。左右2つずつの部分で、シャープなエッジ型のテールライトを形成して、残りの2つがブレーキライトの役割を果たします。



OLED の下にも、LED ライトのストリップがあって、ブレーキを使ったときには、そこがひと際明るく光ります。同じことは、それらの直接下に配置されたダイナミックターンシグナルについてもいえます。左右それぞれのテールライトに使われている発光ダイオードの数は 135 です。

このライトは、新型 Audi A8 を見る人すべてに、特別な存在感を印象付けます。ライトの多くが、ダイナミックな機能を備えており、例えば、リモートコントロールキーで Audi A8 のロックを解除したときには、ライトによるユニークなパフォーマンスが展開されます。ヘッドライトのなかで、外側から内側に光が流れ、次に、レーザースポットの上にブルーの LED が点灯し、最後に、内側から外側にかけて、サイドライトが点灯していきます。

その間、OLED テールライトも、同様の美意識に基づいた光のショーを展開します。最初はライトがうっすらと灯り、次に最大限明るく光ります。それが 2 度繰り返されます。ライトによるプレゼンテーションは、ドアを開けて室内に乗り込んでも続きますが、これには、短いジングルも伴います。ドライバーがドアをロックして新型 Audi A8 から離れた場合には、ヘッドライトとテールライトによるプレゼンテーションが、順序を逆に繰り返されます。

あらゆる点で広さを実感：インテリアデザイン

テクノロジーと美意識の新たな対話。新型 Audi A8 のインテリアに乗り込むと、あらゆる点で広さを実感します。インテリアの基本デザインは、ボタンやスイッチ類を事実上なくした新しい操作方式と完璧に調和しており、クリーンで広い面により、贅沢なラウンジのようなリラックスした雰囲気が演出されています。このアウディの新しいフラグシップモデルでは、静寂と引き算の美学が、デザインベースになっています。

新型 Audi A8 のインテリアでは、エレガントな水平ラインにより構成されたクリアな平面が、全体の基調を成しています。これは、新型 Audi A8 が乗員に提供しようとしている自由な感覚を強調するものです。インストルメントパネルの仕上げには、木目とピアノフィニッシュの選択肢があり、それがラップアラウンドを形成して、ドアトリムからリヤまで大きなアーチで室内を囲んでいます。そこには、複数のエアイベントが設置されていますが、使用しないときはシャッターが下りて見えなくなります。室内でオーマチックエアコンを作動させると、そのシャッターが電動で開きその後エアイベントがわずかに出してくれます。

インストルメントの下側には、中央に 10.1 インチのタッチスクリーン式ディスプレイが設置されていますが、これにはブラックパネルの技術を用いているため、使用しないときは周囲のグロスブラックのトリムに完全に溶け込んで見えなくなります。装備レベルによっては、このディスプレイが、スレートグレーもしくは、ブラシ仕上げのダークマットアルミのカラーで、フレームが見えるタイプになる場合もあります。同様にブラックパネル調に仕上げられたセンタートンネルコンソールにも、もうひとつタッチスクリーン機能を備えた 8.6 インチのディスプレイが設置されています。そのスペースにあるボタンも、オプションでブラックパネル調の仕上げを選べると、タッチスクリーンの面とひとつながりに見えるようになります。このタッチボタンは、伝統的なスイッチ同様に、押すと音と触感によるフィードバックがあります。ライトスイッチとエアイベントのコントロールスイッチにも、同様の機能がついています。



オプションで、センタートンネル、インストルメントパネル、及びドアトリムのそれぞれに2本ずつ、ライトガイドを設置することができます。明るさとカラーを調整できるこのアンピエントライトは、夜間、インテリアのエレガントなラインを強調して、ロマンティックな雰囲気を盛り上げる役割を果たします。Audi A8 Lではさらに、快適性を重視して特別にカスタマイズされたフロントシートのバックレストの部分に、オプションで、装飾用ライトストリップを装着することができます。新開発のマトリクスLED読書灯は、ユニット毎に7つのLEDを採用して、効果的なイルミネーションを生み出します。乗員は、後席用のリモートコントロールユニットを使って、その光の明るさ、大きさ、照射範囲を細かく調整することができます。

自然で本物のカラーと素材

新型 Audi A8 のインテリアは、その優れた素材でも注目に値します。天然ウッドのインレイのなかには、立体感と自然な触感が味わえるものもあります。アウディはレザーに関しても基本的に、六価クロムを使ったなめし法は用いません。最も価値を置くのは、植物由来の材料でなめした、手作業により加工された革素材です。新型 Audi A8 のコンフォートヘッドレストは、ベルベットのようなソフトな風合いを持ったコクーンレザーが採用され、まさに最高グレードの新しい素材が奢られています。最高の素材の組み合わせとその自然な風合いにより、これまでにない、現代的で新鮮なラグジュアリーの表現が生み出されています。細部に至るまで徹底したクラフトマンシップにより、個々のアイテムにビスポークでオーダーした製品と同様のかけがえのない魅力を添えています。同じことは、シートの革素材に施された精緻な穿孔加工についてもいえます。

新型 Audi A8 のインテリアは、8つの素材とカラーの組み合わせが用意されており、その頂点にアウディデザインセレクションも設定されています。シートやドアの表面素材には、ファブリック素材のヴェルディと、本革素材のヴェレッタ、ヴェルコナ、ユニカムの選択肢が用意されています。それぞれ新色のパールベージュ、メトロポリスグレー、メリノグレーといったカラーで提供されます。これに装飾ステッチを加えることで、さらに特別な印象を演出することができます。また、仕様によっては、インストルメントパネルが2トーンとなります。インレイ用のウッド素材は、ブナからユーカリ、バリ仕上げのウォールナット、さらにブラックピアノフィニッシュまで、様々なタイプが用意されています。ご自身の Audi A8 をとりわけ個性的なクルマに仕上げたい方々には、アウディエクスクルーシブの特別オーダーを活用することで、さらに多種多様なエクスクルーシブな天然ウッド、カラー、レザーといった選択肢が用意されています。



SHIFT

さらなる高効率を達成：MHEV テクノロジーを用いたエンジン

ヨーロッパでの発売時、新型 Audi A8 には、210kW (286hp) の 3.0 TDI と 250kW (340hp) の 3.0 TFSI の 2 タイプの V6 ターボエンジンが用意されます。少し遅れて 2 タイプの V8 エンジンが追加設定される予定で、4.0 TDI は 320kW (435hp) 、4.0 TFSI は 338kW (460hp) の最高出力を発生します。その後、430 kW (585 hp) の出力を備えた Audi A8 L 用の W12 エンジンが登場します。いずれも、非常に洗練されて、卓越したパフォーマンスと高い効率を両立したエンジンです。新しいマイルドハイブリッドテクノロジー (MHEV：マイルドハイブリッドエレクトリックビークル) により、実際の走行条件における燃料消費量が 100km 走行あたり 0.7ℓ も減少しています。2018 年には、ガソリンエンジン用の微粒子フィルターも導入される予定です。

アウディの MHEV テクノロジーは、新開発した 48 ボルトの主電源システムを基本としています。この場合、従来の 12 ボルトシステムはサブ電源となっており、48 ボルトシステムから電力を供給されます。48 ボルトシステムに電力を供給するのは、ベルトを介してエンジンのクランクシャフトと連結したオルタネータースターター (BAS) です。ラゲージコンパートメント床下の安全な場所に置かれたリチウムイオンバッテリーが、蓄電ユニットとしての役割を果たしています。

この新しいドライブ方式は、非常に特別な方法で効率性と快適性を融合しています。電圧が 12 ボルトから 48 ボルトへと高くなったことで、新型 Audi A8 は、55~160km/h で走行中、静かにコースティング (無負荷走行) することもできるようになりました。その状態で最長 40 秒間、エンジンを停止させたままゼロエミッション走行することができます。ドライバーがアクセルペダルを踏み込むと、オルタネータースターターが反応して、即座にエンジンが再スタートします。22km/h 以上で走行しているときには、このスタート/ストップ機構が、いつでもスタンバイ状況になっています。ドライバーがブレーキを使うと、BAS により最大 12kW の電力が回生され、燃料消費量の削減に役立ちます。

パワーと自然なレスポンス：3.0 TDI と 3.0 TFSI

どちらの V6 エンジンも、ハイテクを満載した最新のパワーユニットです。3.0 TDI は、2,995cc の排気量から 250kW (340hp) のパワーを発生します。従来型の 3.0 TDI に対し、洗練されたサーマルマネジメントシステムを採用するなど、多くの点で改良が施されています。600Nm の最大トルクは、1,250~3,250rpm の幅広い回転域で提供され、それによりきわめて力強い推進力が得られています。もうひとつの 3.0 TFSI は、2,967cc の排気量から 210kW (286hp) の最高出力を発生。500Nm の最大トルクは、1,370~4,500rpm の非常に幅広い回転域で発生します。排気系は 90° V バンクの内側に配置されており、短い排気経路とツインスクロールターボチャージャーの働きにより俊敏なレスポンスを実現しています。新しい燃焼方式を採用したことで、燃費効率の面でも際立ったエンジンになっています。アウディバルブリフトシステム (AVS) により、必要に応じてインテークバルブの開時間とストロークを 2 段階に調整して、燃焼をサポートしています。



パフォーマンスとカルチャー：4.0 TDI と 4.0 TFSI

2018 年には、さらに高性能な選択肢として、2 タイプの 4ℓV8 エンジン、320kW (435hp) の 4.0 TDI と 338kW (460hp) の 4.0 TFSI が追加される予定です。2 つのエンジンは、ツインターボテクノロジーやアウディバルブリフトシステム (AVS) といった基本的な技術スペックを共有しています。4.0 TFSI にはさらに、シリンダーオンデマンドシステムも採用し、中間以下の負荷領域で作動している場合には、AVS により吸気、排気の両方のバルブを閉じ、2 番、3 番、5 番、8 番のシリンダーを休止させます。これにより、燃料消費量が削減され、効率が向上します。一方、ディーゼルの 4.0 TDI では、AVS により、各シリンダーの一方の排気バルブを制御します。この場合、TFSI とは違って、シーケンシャルに切り替える仕組みになっている 2 つのターボチャージャーの働きを管理します。また充填効率を向上させるために、TFSI 同様、AVS により吸気側のバルブタイミングの制御も行っています。

エンジンにフルに負荷がかかっている場合、4.0 TFSI は、干渉ノイズのない、スポーティそのもののサウンドを奏でます。V8 ガソリン、e-tron 及び W12 ユニットの搭載したモデルでは、アクティブノイズキャンセレーション (ANC) テクノロジーにより、共鳴音を打ち消します。このシステムは、不快なノイズと逆位相の音をスピーカーから発生させます。さらに、V8、W12、3.0 TDI エンジンを搭載したモデルでは、車体への振動の伝達を大幅に減らすアクティブエンジンマウントも採用しています。それらもまた、電磁コイルで振動を打ち消すパルスを発信して、とくにアイドリング時に素晴らしい効果を実現しています。

エクスクルーシブなトップエンジン：W12

2018 年には同じく、新型 Audi A8 L (ロングホイールベース仕様) 専用のトップエンジンとして、高度に洗練された W12 ユニットの登場が予定されています。ツインスクロールターボチャージャーを 2 基装着したこのエンジンの排気量は 5,950cc で、430kW (585hp) のパワーを発生します。800Nm の最大トルクは、1,300~5,000rpm の幅広い回転域で、コンスタントに提供されます。4.0 TFSI 同様、COD (シリンダーオンデマンド) テクノロジーを採用しており、低負荷、低回転で運転する場合には、左側のシリンダーバンクを休止して、燃料消費量を削減します。

快適性と安定性：パワートランスミッション

新型 Audi A8 ではすべてのタイプのエンジンが、新開発の 8 速ティプトロニックと組み合わせられます。このトルクコンバーター式のオートマチックトランスミッションは、ギヤシフトが速くスムーズであり、伝達効率の面でも優れています。遠心振り子を備えたエンジン回転数対応型トーシヨンダンパー (RTD) が、不快な振動を吸収する役割を果たしています。そのため、1,000rpm 程度の低いエンジン回転数からでも、効率的な走行ができるようになっています。

大幅な改良が施されたティプトロニックは、今回初めて電動オイルポンプを採用しています。このポンプは、エンジンを休止してコースティングしているときでも作動することができます。クルマがコースティングを始めて、エンジンが休止するかアイドリング状態になった場合には、即座にトランスミッションのクラッチが切り離されてパワーフローが遮断されます。特にエンジンが休止したコースティングの後に、素早くパワーを取り戻せるよう、アウディのエンジニアは ZF と協力しながら、ギヤの連結ロジックの最適化を図りました。



新型 Audi A8 Audi のトランスミッション制御機構は、今回から初めて、ストップ&ゴーの状況も認識するようになりました。制御プログラムは、快適性をより重視したものに変更して、例えば、不必要なギヤシフトや 2 速発進は、なるべく行わないようにしています。E、D、S のモードを選択したときは、ティプトロニックは自動的に変速しますが、M モードにすると、ドライバーが任意でギヤポジションを選べるようになります。なお、セレクターレバーで行うティプトロニックの操作は、すべて電気信号でトランスミッションに伝えられます。

新型 Audi A8 は、全モデル quattro フルタイム 4WD システムを標準装備します。一般的な走行条件では、セルフロックング センターディファレンシャルの働きにより、駆動トルクは 40 : 60 の割合で、前後のアクスルに振り分けられます。しかし、どちらかのアクスルでスリップが発生した場合には、フロントに最大 70%、リヤに最大 85%、駆動トルクを配分してトラクションを確保します。少しスポーティにクルマを走らせたい場合には、ホイールセレクトティブ トルクコントロールにより、好ましいハンドリング特性が確保されます。インテリジェントなソフトウェア機能により、コーナーに対して内側のホイール（前後とも）に軽くブレーキ圧をかけて、スピンを予防します。

V6、V8 に加え W12 のすべてのエンジンタイプで、スポーツディファレンシャルがオプション設定されています。ダイナミックにコーナーを攻めている状況で、スポーツディファレンシャルはリヤ 2 輪間の駆動力分配を調整して、トラクション、安定性、敏捷性を改善します。ドライバーは、新型 Audi A8 に搭載された MMI ディスプレイで、それぞれのホイールに何パーセントの駆動トルクが配分されているのかを確認することができます。従来型の Audi A8 と比較すると、スポーツディファレンシャルユニットは重量が約 1kg 軽くなり、反応も速く、制御もより精密になりました。その制御を司っているのは、最新世代のレクトロニック サスペンションプラットフォーム (ESP) で、アウディドライブセレクト ハンドリングシステムと連携しています。それにより、ドライバーは 1 台のクルマで、様々なシャシーセッティングを楽しむことができます。アウディドライブセレクトで、comfort、auto、dynamic、efficiency、individual のいずれかのモードを選ぶことで、これと連携した様々なシステム/コンポーネントの設定や制御プログラムを調整することができます。

ラグジュアリークラスのプラグインハイブリッド : Audi A8 L e-tron quattro

新型 Audi A8 シリーズのデビューから数か月後、Audi A8 L e-tron quattro がラインナップに追加される予定です。これは、Audi A3 Sportback e-tron (複合モードでの燃料消費量 : 1.8 ~ 1.6ℓ/100km、複合モードでの電力消費量 : 12.0 ~ 11.4kWh/100km、CO2 排出量 : 40 ~ 36*g/km)、Q7 e-tron 3.0 TDI quattro (複合モードでの燃料消費量 : 1.9 ~ 1.8ℓ/100km、複合モードでの電力消費量 : 19.0 ~ 18.1kWh/100km、CO2 排出量 : 50 ~ 48*g/km) に続く、アウディブランドの 3 番目のプラグインハイブリッドモデルです。

このモデルは、3.0 TFSI エンジンと電気モーターの組み合わせにより、330kW (449hp) のシステムパワーと 700Nm のシステムトルクを発生します。電気モーターは、遮断クラッチと共に 8 速ティプトロニックユニットに内蔵されています。Audi A8 L e-tron quattro の 0-100km/h 加速タイムは 4.9 秒で、最高速度は電子システムにより 250km/h に制限されています。

* 数値は、装着されているタイヤ/ホイールのセットによって異なります。



ラゲージコンパートメントの床下に設置されたりチウムイオンバッテリーは、14.1kWh のエネルギー容量を備えています。このバッテリーは、104 のセルからなるフラットブロックで構成されており、ラゲージ容量にほとんど影響を与えていません。Audi A8 L e-tron quattro は、完全な電気モードで、約 50km の距離を走行することができます。

ハイブリッドマネジメントシステムが、内燃エンジンと電気モーターが最大限に効率よく働くよう、各コンポーネントをコントロールしています。発進時に、Audi A8 L e-tron quattro は、常に電動モードで走行しますが、必要な状況になったときは、内燃エンジンが即座に作動します。圧力ポイントを可変制御するアクティブドライビングペダルが、電気走行で利用可能な最大パワーをドライバーにフィードバックします。EV ボタンを押すことで、ハイブリッドモードの切り替えを行うことができます。ドライバーが、バッテリーに蓄えられた電力を使い切ってしまうか、もしくは後々のためにセーブしたいかに関わらず、このモード選択により、走行特性は大きく影響を受けることになります。

もし、ナビゲーションシステムでルートガイドが有効になっていたら、予測操作ストラテジーも自動的に有効となります。これは、マップデータと新たに設定されたリアルタイム交通情報を使用して、これから通るルート状況を先読みしながら、エネルギー消費が最小になるよう、各システムを制御していく仕組みです。例えば、高速道路を走行しているときには、バッテリー充電量を維持するか、もしくは回復するようプラグインハイブリッドシステムを制御します。それにより、市街地走行に移行したとき、ゼロエミッションの電動モードを選択できるようにします。

この予測効率アシスタントは、ナビゲーションデータと、道路標識読み取りオンラインといった外部から得られる情報、さらに車載センサーからの情報を照合することで、エネルギー効率のいい運転スタイルを促進する役割を果たします。オーディオバーチャルコックピットには、ドライバーに対する推奨事項が表示されます。さらに、アクセルペダルを軽く振動させることで、これらのメッセージが表示されていることをドライバーに示唆します。アダプティブドライビングアシスタント (ADA) と連携することで、ドライバーの介入なしに速度制限、カーブ、交差点、ランナバウトに反応し、自動的に減速や加速まで行うシステムは、世界でもこの Audi A8 L e-tron quattro のみです。もちろん、135km/h まで出せる電動モードで走る場合でも、電気モーターと TFSI の組み合わせで走る場合でも、最終的に判断を下してクルマを操作する責任を負うのはドライバー自身です。ドライバーがアクセルペダルから足を離すと、エネルギー節約の面でメリットが得られる限り、クルマはコースティングを開始します。ゆっくりと減速する場合には、電気モーターをオルタネーターとして使って、エンジンブレーキの代わりにします。そのときに、かなりの量のエネルギーを再生することができます。ホイールに装着された油圧式ブレーキは、より強い制動力が求められるときのみ作動します。また、ティプトロニックのプログラムを「S」モードにしたときは、加速時に電気モーターが常時働くようになり、最大限のシステムトルクが得られるようになります。



Audi A8 L e-tron quattro の発売と同時に、アウディ ワイヤレスチャージング (AWC) のデバイスもデビューすることになります。新開発されたこの便利な充電デバイスは、フロントアクスルの下に敷いたフロアパッド型ステーションから非接触で、クルマに内蔵された 2 次コイルに交流電流を発生させることができます。電磁場による人体への悪影響はまったくありません、電磁場が生じるのは、Audi A8 L e-tron がパッドの上であって、充電が行われる場合だけです。ドライバーが正確な位置にクルマを止められるよう、MMI のモニター上に、充電ステーションの位置が表示されます。3.6kW のパワーで充電が開始される前に、パッドは車体との距離を縮めるために持ち上がります。主電源からバッテリーまで、90%以上という高い効率で充電が行われます。

この方法以外に、Audi A8 L e-tron quattro は、ケーブルを使って自宅もしくは公共の充電ステーションで充電することもできます。その場合、充電パワーは、設備の状況によって、3.6kW もしくは 7.2kW となります。産業用の電源ソケットにつないで、7.2kW の充電パワーが得られる場合は、約 2 時間でバッテリーをフル充電することができます。ドライバーは MMI システムから、充電操作を簡単に始めることができます。それ以外にも、myAudi アプリを使って、スマートフォンから充電をスタートすることもできますし、充電の予約設定を行うこともできます。

スマートフォンはまた、車内温度を調整するときにも、大切な役割を果たします。新型 Audi A8 L e-tron のオートマチックエアコンディショナーのなかでキーとなるコンポーネントはヒートポンプで、これは、高圧電源コンポーネントが発する熱を集めて、エネルギー効率に優れた暖房と冷房を提供する働きをします。空調機構は非常にインテリジェントな制御を採用しています。ドライバーはここでもスマートフォンアプリを使って、出発前に、室内温度やベンチレーションのモードなどを細かく設定することができます。オプションのステアリングホイール、シート、フロントウィンドウ及びリヤウィンドウの熱線ヒーター、シートクーラーなどについても同様です。夏の時期になると、エアコンディショナーに電動コンプレッサーを用いた補助空調システムが、出発前に室内温度を快適に調整します。さらにオプションで、キーを使用してクルマをロック解除した瞬間、空調を設定どおりに立ち上げる機能も用意されています。

新型 Audi A8 L e-tron quattro は、専用のデイトムランニングライトとホイールにより、外観の差別化がされています。ドライバーは、アウディバーチャルコックピットと MMI タッチディスプレイを介して、運転のためのあらゆる情報にアクセスすることができ、またバッテリーの充電状態や、e-tron 専用の空調機能の設定なども確認することができます。



快適性重視からスポーティなセッティングまで：サスペンション

アクティブサスペンション、ダイナミック オールホイールステアリング、そしてエレクトロニック サスペンションプラットフォーム（ESP）。アウディは新型Audi A8開発を機会に、フラッグシップセダンのシャシーを、あらゆる面から再検討しました。その結果、革命的なテクノロジーや制御機構を導入することで、かつてなく快適、スポーティで、安全な足回りが完成しました。ラグジュアリーセダンならではのスムーズな乗り心地から、スポーツカーの引き締まったハンドリングまで、非常に幅広い特性が提供されています。

そうしたものが具現された背景には、アウディの最新鋭のテクノロジーがあります。いずれもサブフレームにマウントされた前後サスペンションは、軽量アルミ部品を多用した精緻な5リンクのシステムを採用しています。さらに、旋回時によりダイレクトな感覚が得られるプログレッシブステアリングと、可変ダンパーを備えたアダプティブエアサスペンションが、全モデルに標準搭載されています。ドライバーは、アウディドライブセレクトに設定された3つのドライビングモード、comfort、auto、dynamicから選択することで、エアサスペンションの設定を切り替えることができます。120km/h以上の速度で走行する場合には、車体が自動的に20mm下がって、エアロダイナミクスを改善します。その場合、autoもしくはdynamicモードで30秒以上走行することが、制御が実行される前提条件となります。

かつてないフレキシビリティ：Audi AIアクティブサスペンション

アダプティブエアサスペンションを採用したことで、Audi A8は、滑らかな乗り心地からスポーティなハンドリングまで、幅広い走行特性を実現することができました。この印象は、V6 TFSI及び2タイプのV8搭載モデルに設定されるAudi AIアクティブサスペンションにより、さらに鮮明なものになるでしょう。W12仕様の新型Audi A8にはこのシステムが標準設定される予定です。Audi AIアクティブサスペンションは、フルアクティブ電気機械式サスペンションシステムです。それぞれのホイールには、1つずつ電気モーターが設置されており、48ボルトのメイン電源システムから電力が供給されています。それに付属する形で、各ホイールに、トランスミッション、チタン製ロールバーを内蔵したロータリーチューブ、カップリングロッドを介してサスペンションに最大1,100Nmの力を加えるレバーなどが配置されています。

このアクティブサスペンションの新機軸は、各ホイールへの負荷を、独立した形で増減できる点です。それにより、あらゆる走行条件の下で、ボディをアクティブにコントロールすることが可能になりました。その結果、シャシーダイナミクスの面でのかつてない柔軟性が実現しています。ドライバーがアウディドライブセレクトでdynamicモードを選択した場合には、新型Audi A8は、スポーツカーのような俊敏なドライブフィールを提供します。足回りが固く引き締まり、ロールアングルは通常のほぼ半分程度にまで削減されます。反対に、comfortモードにすると、荒れた路面の上でも、スムーズな乗り心地が得られるようになります。



アクティブサスペンションは、乗り心地とハンドリングを改善するだけでなく、交差点アシストと連携して、側面衝突に際し、パッシブセーフティを改善する役割も果たします。すなわち、25km/h以上の速度で側面から衝突された場合、サスペンションのアクチュエーターの働きにより、衝撃される側のボディが最大80mm持ち上がります。反応に要する時間は、わずか0.5秒に過ぎません。その目的は、インパクトゾーンを経由してボディのより強いセクションで衝撃を受け止めることです。それにより、強度の高いサイドシルとフロアの構造物で衝撃の大半を受け止められるようになります。キャビンの変形及び乗員の胸部や腹部にもたらされる負荷は、通常のクルマの場合と比べて、最大50%も削減されます。なお、この機能を有効にするためには、Audi AIアクティブサスペンションに加えて、アウディ プレセンス360°システムを装備することが必要となります。

拡大された限界：ダイナミック オールホイールステアリング（4輪操舵）

新型Audi A8のサスペンションには、もうひとつ、世界初の機構が採用されています。それがダイナミック オールホイールステアリング（4輪操舵）です。このシステムの制御も、エレクトロニック サスペンションプラットフォーム（ESP）が司っています。この新開発されたステアリングシステムは、ステアリング切り角とクルマの方向安定性を、別個の問題として捉えることで、従来の運動性能の枠組みを打ち破っています。低速及び急カーブなどにおいては、ステアリングが際立って軽くなる設定になっていますが、それでも、クルマの動きが不安定になることはありません。また、高速で急なレーンチェンジを行っても、クルマがふらつくこともありません。ドライバーには常に、路面からの的確なフィードバックが提供されることとなります。

新型Audi A8にオプション設定されたこのダイナミック オールホイールステアリングは、アウディが独自開発した2つのハイテクステアリングシステムを融合したものです。フロントアクスルに搭載されたダイナミックステアリング機構は、いわゆるストレインウェイブギヤリング（strain wave gearing）と呼ばれるメカニズムを応用して、走行速度に応じてギヤレシオが変わる仕組みになっています。その一方で、リヤホイールも、スピンドルドライブと2つのトラックロッドを用いることで、角度を付けられるようになっており、低速では最大5°まで、前輪の舵とは逆の方向に切ることによって、クルマの取り回しを容易にしています。回転径は、通常のAudi A8に対して約1m小さくなっており、新型Audi A8で11.4m、Audi A8 Lで11.8mという値が実現しています。逆に中高速で走行している場合は、フロントの舵と同じ方向に、最大2度後輪を切れるようにして、走行安定性を高めています。ダイナミックオールホイールステアリングでは、ステアリングレシオを運転条件に合わせて、常に最適な値に設定することができ、新型Audi A8のケースでは、9.5～17：1の範囲で制御が行われます。限界的なハイスピード走行もしくは片側のタイヤが滑りやすい路面に乗り上げるような極限的な走行状況においても、ダイナミック オールホイールステアリングは、フロントとリヤの両方の操舵機構に働きかけることで、走行安定性を高めます。



インテリジェントかつ高度に統合された制御システム：エレクトロニック サスペンションプラットフォーム (ESP)

新型Audi A8には第2世代のESPが搭載されています。これは、サスペンションに関係するすべての信号とデータを単一のコントロールユニットに送って、クルマの運動性能を統合的に制御することにより、かつてない機能を実現するものです。制御の対象となるのはダイナミック オールホイーステアリング、スポーツディファレンシャル、及びアクティブサスペンションの各システムで、ラグジュアリークラスではかつてない統合が図られています。また、センサーの働きにより、アンダーステア、オーバーステアといった運転状況や、路面の摩擦係数も検知しています。コントロールユニットは、計算により得られた結果をもとに、上記のコンポーネント及び可変ダンパーとエアサスペンションを常時調整していきます。その結果、コーナリング姿勢が安定し、横方向のダイナミクスが改善され、理想的な乗り心地が提供されます。総合的なアルゴリズムにより、より迅速かつ緊密なシステム間の連携が実現しています。

大きくてパワフル：ホイールとブレーキ

ドライビングセーフティの面では、フロントのアルミ製固定キャリパーを用いた強力なブレーキも、大きな貢献要素となっています。ブレーキの細かい設定はエンジン仕様によって異なっており、V8モデルとW12には、オプションで420mm径のカーボンセラミック製ベンチレーテッドディスクも用意されています。前輪用のキャリパーには、10もしくは標準仕様でも6つのブレーキピストンが装着されます。エレクトロニック スタビリゼーションコントロールの働きにより、先代モデルよりもさらに精密な制動力のコントロールが可能になっています。

ホイールは、空力的にデザインを最適化した17インチタイプが標準的な仕様で、トップレンジでは9)×21インチホイールと275/35タイヤの組み合わせが用意されています。ホイールのどれかが正しくボルト留めされていない場合には、エレクトロニック スタビリゼーションコントロールに新たに統合された機能が、ドライバーに迅速にそのことを伝えます。このルーズホイールワーニングは全モデルに標準装備され、新型Audi A8は、このシステムを搭載した市場で唯一のクルマとなります。

かつてないレベルのインテリジェンス：Audi AI

Audi AIは、将来の高度な自動運転につながる新世代のハイエンド アシスタンス機能を総称するネーミングです。新型Audi A8にはAudi AIトラフィックジャムパイロット、Audi AI (リモート) パーキングパイロット、Audi AIリモートガレージパイロットの3つのシステムが設定されています。いずれも市販モデルでは世界初のシステムです。

世界初の高度な自動運転機能：Audi AIトラフィックジャムパイロット

Audi AI トラフィックジャムパイロットにより、アウディは、レベル3の高度な自動運転を可能にするシステムを、世界で初めて提供することになりました。一定の条件の下、クルマが運転操作を完全に引き受けます。レベル2の自動システムと違い、ドライバーはクルマによる操作を常に注視する必要はありません。システムが促した場合のみ、運転操作に戻る設定になっています。

トラフィックジャムパイロットの機能を有効にしたい場合は、センターコンソールにあるAIボタンを押します。高速道路などの中央分離帯がある道路において、60km/h以下の速度で、前後のクルマ



マと接近したノロノロ運転の状態が続いている場合、システムが運転操作を代行してくれます。トラフィックジャムパイロットは、発進、加速、ステアリング、ブレーキのいずれの操作も自動で行うことができます。直前に他のクルマが割り込んできても、問題なく対応可能です。セントラルドライバーアシスタンスコントローラー（zFAS）から常時発信されるシグナルにより、この高度なオートパイロット機構が可能になっています。

トラフィックジャムパイロット機能が作動中は、ドライバーはリラックスすることができます。ステアリングホイールから手を放したままでも大丈夫で、その国の法律が許せば、センターコンソールに設置された10.1インチのディスプレイで、TV番組などを視聴したり、運転以外の行為を行うこともできます。その間、オーディオバーチャルコックピットのディスプレイには、クルマの動きや周囲の状況を表したシンボリックな画像が表示されます。

自動運転機能が作動中、システムは運転席に設置された小さなカメラでドライバーの様子を観察しており、疲れた様子や万一寝てしまう状態が見られた場合には、段階を踏んで警告が発せられます。また、走行速度が 60km/h を超えるか、渋滞が解消して自由な走行が可能になった場合にも、運転を再開する必要が生じたことがドライバーに通知されます。ドライバーがその通告を無視した場合には、さらに何度か警告を発した上で、最終的にはブレーキをかけてクルマを停止させます。Audi AI トラフィックジャムパイロットの導入には、各国における法的枠組みを明らかにし、各々の市場におけるシステムの適用とテストが必要となります。オーディオブランドの高い品質基準は、高度に自動化された運転の分野でも同様に適用されます。さらに、承認手続きの範囲とそのタイムスケールを世界中で遵守する必要があります。そのため、オーディオでは、市販モデルにトラフィックジャムパイロットを導入するにあたって、段階的なアプローチを採用していきます。

駐車と監視機能：Audi AIリモートパーキングパイロット及びガレージパイロット

Audi AI リモートパーキングパイロットと Audi AI リモートガレージパイロットを搭載した新型 Audi A8 は、ドライバーが乗車しなくても、縦列もしくは垂直方向のスペースに駐車することができます。どちらのシステムも、ステアリング、アクセル、ブレーキ、ティプトロニックの操作を自動的に行い、オプションのダイナミック オールホイールステアリングにも対応しています。

ここで注目すべきは、駐車の間、ドライバーは車外にいるという点です。駐車の間は、手持ちのスマートフォンで myAudi アプリを呼び出し、その Audi AI ボタンを押すことでスタートします。駐車を続けるには、Audi AI ボタンを押し続ける必要があります。そうすることで車載の 360°カメラからの映像がスマートフォンに映し出されて、クルマの動きを確認することができます。駐車が終了すると、ティプトロニックが自動的に P ポジションに入り、エンジンとイグニッションがオフになります。再出発するときも、ドライバーはスマートフォンを使って Audi A8 を始動させ、駐車スペースもしくはガレージから自律操作で呼び寄せることができます。ドライバーが乗ったままの場合でも、センターコンソールの AI ボタンを押すことで、パーキングパイロットの機能を作動させることができます。myAudi アプリの AI ボタン同様、パーキング操作中は、ボタンを押し続ける必要があります。



Audi AI（リモート）パーキングパイロットとAudi AIリモートガレージパイロットは、とてもインテリジェントで便利な機能です。もし曲がりながらガレージに入る場合でも、Audi A8は見事にステアリングを操ってみせます。ガレージのなかでは、Audi A8は細心の注意を払って壁やバイクなどの障害物との距離を詰めますが、十分なスペースがないと判断した場合には、自主的にパーキング操作を中断します。こうした精密な動きが可能になったのも、革新的なレーザースキャナーを導入したおかげで、ライバルにはないアウディならではの優れた先進機能となっています。



SENSE

包括的なコネクテッド機能：新しいアウディのセンサー

アウディは、新型Audi A8とともに自動運転に向けて決定的な一歩を踏み出します。車両周辺を包括的かつ継続的に感知する環境が、自動運転の基本条件となります。これを実現するため、この新しいフラッグシップモデルには、さまざまなセンサーが装着されています。センサーの構成は次のとおりです。

- 12個の超音波センサー：フロント、サイド、リヤ
- 4個の360°カメラ：フロント、リヤ、ドアミラー
- 1個のフロントカメラ：フロントウィンドウ上端
- 4個のミッドレンジレーダー：車両四隅
- 1個のロングレンジレーダー：フロント
- 1個のレーザーキャナー：フロント
- 1個の赤外線カメラ（ナイトビジョンアシスト用）：フロント

以前は複数のコントロールユニットが装着され、それぞれがピックアップした情報を評価し、特定の機能を実現していました。新型Audi A8では、アウディ史上初めて、セントラルドライバーアシスタンスコントローラー（zFAS）を採用、センサーデータに基づいて包括的な周辺画像を生成し、広範囲なアシスタンスができるようになりました。この画像は、相互補完的センサーシステム、zFASとレーダー制御ユニットの冗長データ融合によって作成されます。アダプティブドライビングアシスタント、アクティブサスペンション、パークアシスタンス、トラフィックジャムパイロットなど、すべてのアシスタンスシステムは、周辺情報の集中的な管理によってメリットを得ます。道路標識はデジタルマップのデータに取り込まれ、アクティブフィールド上には交差点アシストが表示されます。また、エマージェンシーブレーキ機能は、冗長設計によって質的および機能的に最適化されました。zFASの大きさは、いわゆるタブレット型コンピューターと同等で、新型Audi A8とともにデビューします。この装置は、ハイテクデータセンターであり、NVIDIA（Tegra K1）、ALTERA（Cyclon V）、Infineon（Aurix）はもちろん、自動車用画像処理アルゴリズムの世界的リーダー、Mobileyeの画像処理プロセッサEyeQ3といったハイパフォーマンスコンピューターを統合しています。



トップセグメントで世界初：レーザースキャナー

アウディは、レーザースキャナーも世界で初めて採用しています。フロントバンパーに装着されたレーザースキャナーは、握り拳ほどの大きさで、複数の光パルスを発射します。このパルスは、ミラーによって照射角145°、照射範囲約80mの扇状になります。レーザーの波長は近赤外領域にあり、人間の目には見えず、人体にも無害です。車両前方に何らかの物体があると、パルスが反射されて、数ミリ秒以内にレーザースキャナーに戻ります。戻ってきたパルスは、フォトダイオードによって検出されます。パルスの発射から復帰に要する時間に基づいて、詳細かつ複雑な周辺情報イメージが形成されます。レーザースキャナーは、ロングレンジレーダーおよびフロントカメラとともにセンサトリオとして相互補完的に動作し、さまざまなアドバンテージをもたらします。レーザーは、大きな照射角を持ち、非金属を含むあらゆる種類の物体を精密に感知します。一方、レーダーの照射範囲は最大250mとレーザーより長く、高さもあり、雨や霧などの悪天候下でも安定するなどの長所を持っています。

新型Audi A8には、非常に明るいヘッドライトが装備されていますが、フロントカメラが暗さの限界に達することも想定されています。レーザースキャナーとレーダーは、たとえ暗闇であっても機能を続けます。視界が確保されている場合は、フロントカメラが車両周辺および中距離域の高解像度画像を提供します。画像データベースを駆使して、自動車、トラック、自転車、歩行者など、個別の物体が何であるかを特定することができます。画像処理システムには、ディープラーニング法（深層学習法）が初採用されました。このシステムは、どの特徴を捉え、様々な物体を識別するのに適切であるかを決定する際に、自己学習アプローチの一部としてニューラルネットワークを使用します。これも自動運転に向けた重要な条件となります。

高度なコネクテッドセンサーテクノロジーにより、新型Audi A8のアシスタンスシステムは、物体に対する反応速度が速くなりました。たとえば、渋滞の車列の最後尾を感知するとブレーキをかけはじめます。この面でも、先代モデルを上回る性能を誇っています。ナビゲーションシステムも、センサーデータの融合によるメリットを得て、多くの状況で絶対的な精度で位置を特定できるようになっています。

高速道路から駐車場まで：ドライバーアシスタンスシステム

第4世代に進化したAudi A8には、41種類ものドライバーアシスタンスシステムが装着され、新たな基準を打ち立てています。システムは、高速道路であれ、駐車場であれ、ドライバーを支援し、運転の利便性を高め、労力を軽減し、安全性を高めます。アウディは、アシスタンスシステムを、Park、City、Tourの3つのパッケージにグループ化しています。ドイツ仕様には、Tourパッケージが標準装備されます。Audi AI アシストパッケージプラスを注文すると3つのパッケージすべてが含まれ、Audi AI リモートガレージパイロットも付加されます。



Audi AI Parkアシストパッケージは、Audi AIパーキングパイロットと広角360°カメラで構成され、駐車場など狭い場所での取り回しの安全を図ります。ドライバーは、オンボードモニターを介して、さまざまな角度から自車周辺を確認できるほか、画面にはガイドラインも表示されます。操作アシストは、ステアリング操作を支援するほか、静止した物体だけでなく、動いている物体との衝突の危険がある時は自動的にブレーキをかけます。また、Parkアシストパッケージには、アロイホイールを保護する縁石警告機能も含まれます。

Cityアシストパッケージには、新開発された交差点アシストが採用されています。ミッドレンジレーダーが車両前方を横切る車両などを感知した場合、システムがドライバーに警告するとともに、必要に応じてブレーキをかけます。新型Audi A8は、車線変更の際にも警告を発します。エグジツトワーニングシステムは、車内からドアを開けようとした時に後方から車両や自転車が接近している時に警告します。ドアトリムに内蔵されたライトガイドが光学的に危険を知らせます。駐車スペースから、後退しながらクルマを出さなければならない場合は、リヤクロストラフィックアシストが作動します。

Cityパッケージにはさらに、プレセンス360°セーフティシステムも装着されています。このシステムは、車両全方位の衝突の危険性を感知し、フルブレーキング、シートの調整、シートベルトの締め付けなど、必要な予備動作を実行します。側面衝突の危険がある場合は、Audi AIアクティブサスペンションが車両の片側を持ち上げて、衝撃に強いシル部分でエネルギーを受け止めます。この新機能は、アウディ プレセンスサイドと呼ばれ、プレセンス360°システムの一部を構成します。このシステムは、車両の四隅に配置されたミッドレンジレーダー（測定距離：約75m）を含め、セントラルドライバーアシスタンスコントローラー（zFAS）に統合化されたセンサー情報に基づいて作動します。

Tourアシストパッケージの主力システムは、アダプティブドライビングアシスタント（ADA）です。これは、先代モデルのアダプティブクルーズコントロール（ACC）の発展進化バージョンであり、レーンアシストおよびトラフィックジャムアシストの機能を一体化しています。これにより、0～250km/hの全速度域において、前後方向と横方向のいずれのアシストも受けられます。ボトルネックアシストは、道路工事現場などを通過する時に威力を発揮します。さらに、ナビゲーションデータや道路標識情報などのCar-to-Xコンテンツを組み込むことで、効率的な運転スタイルを促進します。ドライバーの介入なしに、速度制限、カーブ、交差点、ロータリーに対応して加減速を行ない、さらにこれらをナビゲーションシステムのルート情報に組み込めるモデルは、このセグメントではAudi A8だけです。また、アウディバーチャルコックピットの予測アドバイスに基づいてアクセルペダルが脈動、ドライバーに警告を発します。

Tourパッケージの一部であるアウディ プレセンスフロントセーフティシステムは、追突の防止と万が一の追突時の衝撃の緩和を図ります。車両だけでなく、歩行者、自転車やモーターサイクルに反応します。このシステムは、250km/hの最高速度まで機能します。



Tourパッケージには、ターンアシストと衝突回避アシストも含まれます。ターンアシストは、交差点などで右折する場合に対向車との衝突が避けられるよう、対向車線を監視します。さらに、交差点などで対向車が右折を試みる場合に、対向車両の動きも監視します。また、このセグメントで衝突回避アシストを備えているのはAudi A8だけです。このアシスタンスシステムは、個別ホイールの制動やステアリングへの介入も実行し、より正確な障害物回避を実現します。カメラベースの道路標識認識機能およびエマージェンシーアシストは、万が一ドライバーが車両の操作ができなくなった場合に車両を停止させるシステムです。

また、オプションとして、パークアシストとナイトビジョンアシストも設定されています。ナイトビジョンアシストは、赤外線カメラで暗闇を監視し、歩行者や大型の野生動物を感知した場合に、ドライバーにその存在を通知します。

最高峰のテクノロジー：MMIナビゲーションプラス

新型Audi A8は、インフォテインメントでも斬新なアプローチを採用しています。ラインナップの最上位に位置するのは、MMIナビゲーションプラスです。このシステムには、最新世代のモジュラーインフォテインメントプラットフォームが採用されています。このプラットフォームは、MIB 2+と呼ばれ、演算能力、エネルギー効率、メインメモリー、グラフィックなどすべての点で最先端を行くシステムです。主要コンポーネントのK1ユニットは、アウディのベンチャーパートナー、NVIDIAが開発したもので、クアッドコアメインプロセッサに192コアグラフィックプロセッサを組み合わせ、第1世代MIBの約50倍もの高速で作動します。

MMI ナビゲーションプラスでは、コネクタサービスが標準化され、電話モジュールを備えています。さらに、Wi-Fi ホットスポットを含むコネクタデータ通信モジュールを拡張するオプションも用意されています。これは、LTE アドバンスド基準を自動車業界に持ち込むものであり、これもまたアウディが世界で初めて採用しました。データ転送速度は、ダウンロード（下り）が最大300MBit/秒、アップロード（上り）が50MBit/秒であり、これは現在の最高速度のほぼ3倍に達します。VoLTE（ボイスオーバーLTE）テクノロジーにより、アウディフォンボックスから携帯電話に発信することもできます。これにより、電話接続が高速化され、高速データ転送と高解像度のオンライン音声電話（HD Voice）の同時使用が可能になります。相手の音声は、あたかもすぐ隣にいるかのように聞こえます。



Car-to-X：道路標識情報と危険情報

新型 Audi A8 は、アウディコネクトナビゲーション&インフォテインメントサービスを介して、クラウドの一部になります。特に、道路標識と危険（ハザード）情報 Car-to-X サービスによって、その進化が際立っています。新型 Audi A8 と他のアウディモデルは、車載カメラで検知した速度制限情報をクラウドのサーバーに報告します。サーバーはこの情報を処理し、情報が有益と思われる他のアウディドライバーに送信します。危険情報サービスも同様の方法で実行されます。車両同士が、事故、故障車両、滑りやすい路面、視界の悪化などの情報を共有します。システムは、車載エレクトロニクス、レイン&ライトセンサー情報、ヘッドライト、ワイパー作動状況などのパラメーターを分析して、危険情報データを構築します。新しい Car-to-X サービスの情報基盤は、アウディが BMW グループやダイムラーAG と提携して、継続的に更新・拡張しているデータプラットフォーム、HERE によって提供されるマップデータです。交通状況をセンチメートル単位の精度で調査し、何か出来事があった場合はリアルタイムでこれを感知し、評価することができます。

その他のサービスも充実：Audi connect

Audi connect には、Car-to-X サービス以外にも、Twitter へのアクセス、eメールのメールボックス、Google Earth ナビゲーションなどさまざまなサービスコンテンツが存在します。新しいハイブリッドラジオサービスは、VHF、DAB、オンラインステーションをシームレスに切り替えて最良の受信状態を実現します。放送中の楽曲を認識するだけでなく、クラウドからコンテキスト情報をダウンロードすることもできます。オンラインラジオは、何千局ものインターネットラジオ局や世界中のポッドキャストにアクセス可能です。多くの市場では、Audi connect サービスへのデータ転送は、車両に内蔵された Audi connect SIM が担当します。データ転送は定額料金で、ヨーロッパ各国ではローミングも可能です。Audi A8 車内で Wi-Fi ホットスポットを利用したい場合や新しいインターネットラジオサービスを利用したい場合は、魅力的なデータパッケージを選択する方法もあります。Audi connect には、車両の点検スケジュールを含むパッケージ、Audi connect セーフティ&サービスも用意されています。これには、エマージェンシーコール、オンラインロードアシスタンス、アウディサービスリクエスト機能のほか、アプリで操作可能なリモートサービスも含まれます。

セントラルアクセスポイント：新しい myAudi アプリ

すべての Audi connect 機能は、新しい myAudi アプリに集約されています。使い勝手と機能が向上、ユーザーはアプリを介してすべてのアウディコンテンツにアクセスできます。スマートフォンベースのサービスには、ナビゲーションシステムへのお勧めスポット転送、Napster 経由のミュージックストリーミング、MMI へのスマートフォンカレンダーの複製などが含まれます。このアプリは、ドアのロック/ロック解除、オプションの補助ヒーターの操作、ステータスレポートの呼び出しなどにも使用できます。ステータスレポートは、myAudi ポータルでも呼び出せます。盗難に遭った場合、アウディコールセンターがリモートアクセスで Audi A8 の位置を特定、必要に応じて車両の操作を無効化します。さらに、ホーンやハザードランプを作動して注意を喚起し、警察による盗難車の発見をサポートします。



画期的：さまざまな機能が追加されたナビゲーション

ナビゲーションシステムも、理想的で機能的な各種新機能を提供します。マップは内容を一新、ヨーロッパ主要都市の詳細なモデルを使ったよりリアルな地図を再現します。ルートの策定では、自己学習機能を備えたナビゲーションシステムが過去に走行したルートに基づいたルート提案を行います。また、過去の走行時間や交通状況を考慮する機能も備えています。ルート計算は、オンラインで HERE サーバーに接続して実行されます。このサーバーには、交通状況に関するリアルタイムのデータが保存されています。拡張された POI 機能を使うと、ガソリンスタンドや駐車場など特定のスポットを呼び出すことができます。さらに現在の燃料価格、駐車スペースの広さ、営業時間などの追加情報も見ることができます。MMI ナビゲーションプラスと組み合わせた場合、1年に4回の無料マップデータアップデートが提供されます。

myAudi アプリには、myAudi Navigation と呼ばれる新機能も用意されています。複数のデバイスを介してルートをシームレスに策定できるようになるため、初めて訪れる都市などで真価を発揮します。たとえば、レストランで食事した後、少し離れた場所に駐車した車両まで戻る状況を考えてみましょう。スマートフォンでアプリを起動してルート検索機能で車両まで戻ると、そこでナビゲーションがスマートフォンから車載システムに切り替わって新たな目的地を目指すことができます。目的地に到着して Audi A8 から降りると、再びスマートフォンによるナビゲーションに切り替わります。

デジタルアクセス：Audi connectキー

Audi connect キーは、車両へのアクセス方法に一石を投じます。お馴染みのリモートコントロールキーの代わりに Android スマートフォンでドアロックを解除できるだけでなく、エンジン始動も可能です。アクセスデータは、SIM カードまたはスマートフォンのセキュアな領域に保存されます。ドアハンドル付近にスマートフォンをかざすと、データは近距離通信 (NFC) によってクルマに送信されます。

Audi connect キーは、セキュリティと同様、利便性にも優れています。新型 Audi A8 のオーナーは、家族や友人など最大 4 名にアクセスデータを発行することができます。スマートフォンのバッテリーが完全に消耗した場合でも、キーは常に動作します (モデルによって異なります)。コンシェルジュサービスやワークショップで車両のサービスを受ける場合は、クレジットカードと同様の大きさの NFC 対応キーカードによって、スマートフォンを持っていない作業者などに車両の操作をさせることもできます。これらのデータは、オーディグループが所有するセキュアなサーバー上のクラウドに保管されます。ここでは、256 ビット暗号化といった最新の暗号標準が使用されています。

400 種類のカスタム機能：パーソナライゼーション

新型 Audi A8 には、5 名のドライバーがそれぞれ好みの設定を、最大 7 ユーザー分のプロフィールに保存することができます。パーソナライゼーションの対象となるパラメーターは、運転席の位置、エアコンディショナーの設定、前回のナビゲーション目的地設定、お気に入りのメディアなど、最大 400 項目が可能です。ディスプレイ表示内容やアシスタンスシステムも、カスタマイゼーションの対象です。



リモートコントロールキーや Audi connect キーでドアロックが解除された瞬間、新型 Audi A8 はそのユーザーが誰であることを認識します。Audi A8 は、ユーザーの名前を呼びつつドライバーをオーディオバーチャルコックピットに迎え、ユーザーに即した設定を呼び出します。その他、平日と週末の設定、高速道路と一般路の設定など、さまざまな個別プロファイル設定が用意されています。これらの設定は、走行中に切り替えることができます。

バーチャルクリック：MMI タッチレスポンスオペレーティングシステム

このラグジュアリーセダンには、非常に幅広い設定や選択肢が用意されています。そのような場合、操作コンセプトが首尾一貫していることが非常に重要です。先代モデルの Audi A8 にも素晴らしい MMI および MMI タッチシステムが採用されていました。今回、新型への進化に伴って、新世代のシステム、MMI タッチレスポンスが登場します。

システムの中核となるディスプレイは、ブラックを基調とした 10.1 インチパネルです。これは、タブレットコンピューターと同じ画面サイズです。1,540×720 ピクセルの解像度を誇る TFT スクリーンは、なだらかな曲線を描いていて、斜め横から見た場合でもシャープでクリアなコントラストの高い再現性を提供します。

MMI タッチレスポンスは、触覚と音によるフィードバックを組み合わせ、非常に信頼性の高いタッチスクリーンテクノロジーを実現しました。指がディスプレイガラスに触れても、直ちに機能が呼び出されるわけではありません。一定の圧力でガラス面が押された場合だけ、システムが動作します。この操作を認識すると、電磁石がわずかにガラス面を左右に振動させます。同時に小さなスピーカーからクリック音が聞こえます。このようにして、タッチスクリーンディスプレイは、ユーザーに確かなフィードバックを提供します。慣れ親しんだプッシュボタンの信頼性とクオリティを純粋なデジタル環境に応用することに成功しました。

ナビゲーション、メディア、車両機能の制御には、大型ディスプレイを使用します。クリック、スワイプ、ズーム、スクロールなど、お馴染みの操作が可能です。メニュー構成は、スマートフォンと同様、直感的でフラットな階層を特徴としています。メインメニュー構成やダイレクトアクセスバーは、どちらも個別に設定変更できます。加えて、センターコンソールには、8.6 インチ、1,280×660 ピクセルのセカンドディスプレイが装着されています。このディスプレイは、エアコンディショナーなどの快適性機能の制御に使用します。また、ナビゲーションの地点登録、ラジオ局、電話番号、車両機能など個別カスタマイゼーションのお気に入り登録にも使います。ティプトロニックセレクターレバーに手首を置いて、快適に画面を操作できます。

セカンドディスプレイは、キーボードまたは手書きによる文字入力にも対応しています。特に手書き入力認識機能は、MMI コンセプトの飛躍的な進化を表しています。音のフィードバックによる全体手書き文字認識またはオンザスポット入力により、ディスプレイを確認することなく、目的地や特定の単語を迅速かつ正確に入力することができます。

今回、メニュー構成が刷新され、すべての Audi connect のコンテンツは、関連する機能メニューの直下に表示されるようになりました。これによって、簡単かつ迅速に希望の機能を探すことができます。例えば、イタリアンレストランを探す場合、最初の数文字を入力するだけで、検索リ



ストが表示されます。さらに、Yelp ランキングも表示され、さまざまな分野ごとに並べ替えることもできます。ガソリンスタンドを検索すると、燃料価格が表示されます。この場合、Google 検索のオプションを使用することも可能です。

メインおよびセカンドディスプレイのスクリーンには、指紋が付きにくいコーティングが施されています。指紋が付いた場合でも、簡単に拭き取れます。また、反射を抑えるアンチグレアレイヤーも施されています。反射を抑えることで、操作ミスによる誤作動を減らすことができます。表面層には、スマートフォンに多用される Gorilla ガラスと同様、強化処理が行われています。このガラスは、非常に堅牢であるうえ、傷にも強いという長所を持っています。

高いヒット率：ハイブリッドコンセプトによるキーワード検索

ドライバーが何らかの質問をした場合、Audi A8 は次のいずれかの方法で回答します。まず、車両が記憶したユーザー設定の情報を使用する方法です。ふたつ目は、クラウドから情報を受け取る方法です。このシームレスなコネク特体験は、音声認識機能にも応用されています。Audi A8 は高度な会話ができるのかと思うほどです。ドライバーが何らかのコマンドを発話すると、認識ソフトウェアの専用データパッケージが起動するとともに、セルフラーニングダイアログマネージャーが返答し、必要に応じて質問を返したり、選択肢を提供したりします。ネットワーク感度が良好な場合、返答に要する時間は 2 秒未満です。システムとの対話により、メニューエリアを切り替えることができます。たとえば、アドレス帳から選択して電話をかけたり、住所情報をナビゲーションに送って目的地に設定したりすることができます。このような目的地検索以外にも、新ハイブリッドボイスコントロールを介して、メディア、エアコンディショナー、一部の電話機能、一部の Audi connect サービス機能を使うことができます。この機能は、ヨーロッパ各国で利用できます。

フル HD：オーディオバーチャルコクピット

MMI タッチレスポンスディスプレイやハイブリッドボイスコントロールのほか、Audi A8 には第 3 のコントロール、マルチファンクションステアリングホイールが装着されています。このステアリングを介して、すべての運転および車両情報が呼び出せるだけでなく、主要なインフォテインメント機能を操作することもできます。情報はオーディオバーチャルコクピットに表示されます。バーチャルコクピットの 12.3 インチ TFT ディスプレイは、独立した NVIDIA 製の K1 コンピューター経由で作動し、1,920×720 ピクセルのフル HD 画像を提供します。ドライバーは、モダンな印象を与える 2 種類のインターフェースのどちらかを選択することができます。クラシックビューでは、バーチャルコクピットはアナログメーターとほぼ同等のサイズで表示されます。スピードメーターとタコメーターの間には画面が存在し、ナビゲーションマップ、電話、ラジオ、オーディオリストなどが表示されます。インフォテインメントモードでは、この画面が最大サイズに拡大される一方で、スピードメーターとタコメーターはどちらもサイズが小さくなります。

浮かび上がる情報：ヘッドアップディスプレイ

オプションのヘッドアップディスプレイを選択すると、速度、ナビゲーションメッセージ、一部のアシスタンスシステム情報がドライバーの視界内に記号や数字として表示されるため、瞬時にその内容を認識することができます。TFT スクリーンと 2 個の非球面ミラーにより、フロントウィンドウ上に 217×84mm のサイズで情報が表示されます。この映像は、ドライバーの約 2.3m



前方に浮遊しているかのような印象を与えます。運転中、ドライバーの視線ははるか前方に焦点が合っていますが、その周辺に情報を表示することにより、ドライバーの集中力を損なうことなく、適切かつ迅速に情報を提供します。



SPACE

自由度：寸法コンセプト

新型 Audi A8 の全長は 5,172mm、全幅は 1,945mm、全高は 1,473mm です。先代モデルと比較すると、全長は 37mm 長く、全高は 13mm 高くなりましたが、全幅はわずかに狭くなっています。2,998mm のホイールベースは、旧型比で 6mm 長くなっています。ロングホイールベースバージョンでは、ホイールベースと全長が 130mm 伸展され、全高が 15mm 高くなります。両ボディバージョンとも、フロント/リヤトレッドは、1,644/1,633mm です。

寸法の拡大によって、乗員にメリットがもたらされています。新型 Audi A8 は、クラス最大のインテリアを誇ります。両ボディバージョンとも、室内長は 32mm 延長されました。Audi A8 L では、ヘッドルーム、ショルダールーム、レッグルームのすべてに新たな余裕が生まれています。2 分割式パノラミックサンルーフにより、インテリアにいつもの開放感がもたらされました。ラゲージコンパートメント容量は、Audi A8、Audi A8 L 共通の 505ℓ です。

軽量構造のエキスパート：複合素材アウディスペースフレーム

アルミニウム、スチール、マグネシウム、そしてカーボンファイバー強化プラスチック (CFRP)。新型 Audi A8 の荷重支持構造には、これまでのアウディ製品を上回る数多くの素材が採用されています。それにより、このラグジュアリーセダンの振じり剛性は、先代モデル比で最大 24% も向上しています。これは、精密なハンドリングと良好な音響特性における重要な指標となっています。

アウディは、自動車における軽量構造のパイオニアです。1994 年にデビューした初代 Audi A8 は、フルアルミニウムボディ構造のアウディスペースフレーム (ASF) を備えた世界初の量産車でした。以来、アウディブランドは、100 万台以上の ASF 製品を送り出して来ました。新型 Audi A8 にも ASF コンセプトが採用されていますが、アルミニウムの割合 (鋳造ノード、押し出し成形セクション、パネルによる) は 58% にすぎません。先代モデルの同等品と比較して、素材強度が向上しています。キャビンは、熱間成型スチールコンポーネントと超高強度かつ驚異的な振じり剛性を誇る CFRP リヤパネルで構成されています。荷重と剪断応力を理想的に吸収するため、CFRP のファブリック層は、19 種類の方向に向けられ、それぞれが交差するようレイアウトされています。マグネシウム製ストラットタワーバーにより、新たな進化を遂げた軽量構造コンセプトが完成しています。

新型 Audi A8 は、空気音響工学でもクラスをリードしています。特にミラーやドアシールによる風切り音の発生が抑えられています。アクスルやアッセンブリーのマウントにも最高レベルのテクノロジーを応用しているだけでなく、ガラスが決定的な役割を果たしています。オプションのアコースティックガラスは、すでに高い Audi A8 の防音レベルをさらに高めています。

アウディは、複合素材ボディの組立に 14 種類もの接合技法を使用しています。たとえば、ドアシールのヘム加工は、B ピラー部におけるアルミニウム製サイドウォールフレームと熱間成型スチールシートや、ルーフラインとシルの接合に使われています。この技術により、フランジ部を狭小化する一方で、開口部を大きく取って乗降性を向上させています。



素早い作動：エレクトリックドアロック

新型 Audi A8 では、すべての操作プロセスが簡便化されています。ドアの開閉も例外ではありません。外部ドアハンドルを 5mm ほど引くと、マイクロスイッチがキャッチをリリースします。室内からドアを開ける場合もわずか数ミリの操作で十分です。緊急の場合は、ボーデンケーブルを引くことによって、車両外側からも内側からもドアを機械的に開放することができます。

エレクトリックドアロックには、パワーラッチ機能がオプション設定されています。ラゲージコンパートメントリッドのオートリリースは標準装備ですが、ここにも電動駆動をオプション設定することができます。コンビニエンスキーとボタン操作または足によるジェスチャーによって、リッドを開閉できます。

五感に訴える乗車体験：ラグジュアリーの新たな息吹

自由であること。これは、新しいラグジュアリーを定義する言葉です。新型 Audi A8 は、五感に訴えかけ、首尾一貫した印象を与えられるよう造り込まれています。インテリア各部の形状やラインに始まり、本物の素材を厳選し、オーダーメイドの品質で創り上げ、ハイエンドサウンドシステムで聴覚を刺激し、インテリアの芳香にもこだわりました。

繭に包まれるような快適感：シート

新型 Audi A8 のインテリアに漂うラウンジのような快適感は、新デザインのシートによるところが大きいと言えるでしょう。先代モデルのシートよりも大幅に軽くなり、フロントシート単体で 4kg の軽量化に成功しています。リヤシートには、ガラス繊維強化プラスチック（GFRP）が使われています。フロント、リヤシートのクッションおよびバックレストには、さまざまな形状のコンフォート&フレキシブルフォーム層が組み合わされ、圧倒的な快適性とサポート性を高次元でバランスさせています。

フロントシートには、複数のバージョンを用意しました。トップバージョンは、コンフォートカスタマイズドコンツァーシートと呼ばれています。ニューマティックシートクッションおよびバックレストサイドボルスター調整に加えて、ヒーター&ベンチレーション機能がオプション設定されています。ヒーターとベンチレーションは、ともに 3 段階の調整が可能です。マッサージ機能も拡張されています。バックレストには、16 個の小さな泡状のエアポケットがあり、互いに 3 つずつ並んでいます。マッサージには 7 種類のプログラムと 3 段階の強度レベルが設定されています。各シートの小型コンプレッサーは、最大 0.5 バールの圧力を生み出します。

両ボディバージョン（標準およびロングホイールベース）ともに、3 座のリヤシートが標準装備されますが、トランクスルー機能またはクーラーボックスをオプションとして取ることができます。窓側シートには、ヒーター機能、前後、シート角、バックレスト角のパワー調整機構をオプション設定しています。ランバーサポートは、ニューマティックタイプです。各シートに 18 個装着されたトリプルエアポケットによるマッサージ機能も用意されています。コンフォートヘッドレストやリヤローラーブラインドをオプション設定すると、キャビンの快適性は完成の域に達します。Audi A8 L の延長センターコンソールバージョンには、左右独立型のリヤシートが採用されます。もちろんこのシートにも、各種電動調整オプションを組み合わせることができます。延長センターコンソールには、アームレストと大型収納コンパートメントが内蔵されます。



ファーストクラスの快適性：リラクゼーションシート

新型 Audi A8 左ハンドル仕様の右リヤシートには、リラクゼーションシートと呼ばれるファーストクラスのソリューションが採用されています。シートをリクライニングさせ、フロントシートバックレストに組み込まれた電動折りたたみ式フットレストに足を載せてくつろぐことができます。フットレストには、フットウォーマーやマッサージ機能がオプションが用意されています。3種類のパワーレベル、2種類のプログラム、3種類の足サイズからの選択が可能です。また、フルサーフェスリフレクソロジーも設定されています。リヤシートには、ゆったりとくつろげるソフトコンフォートヘッドレストが装着されます。高さ調整は電動式です。リラクゼーションシートパッケージは、マッサージ機能付コンフォートカスタマイズドコンツァーシート、ダブルフォールディングテーブル付き延長センターコンソール、リヤシートリモートオペレーティングユニット、リヤシートエンターテインメント、4ゾーンデラックスオートマチックエアコンディショナーから構成されます。サーマルコンフォートパッケージは、いわゆる補助的なオプションであり、ドアアームレスト、フロント/リヤセンターアームレスト、ステアリングホイールにヒーター機能が追加されます。

コンパクト性、操作性、利便性：リヤシートリモート

アウディは、リヤコンパートメント専用のコンパクトなリヤシートリモートを開発しました。このデバイスは、外観はスマートフォンによく似ています。デバイスのタッチスクリーンで、空調コントロール、シート調整、照明、各種メディアをコントロールすることができます。また、アウディタブレット（フロントシート裏側に装着）用の便利なりモートコントロールとしても機能します。MMI ナビゲーションプラスとの通信は、新しい 5GHz 帯の Wi-Fi 経由で実行します。

リヤシートリモートには、OLED テクノロジーによる 5.7 インチフル HD タッチスクリーンディスプレイが備えられています。高品質なアルミニウムケースを採用し、NVIDIA の T40 プロセッサが提供するテクノロジーは、車内で起こり得る高温環境にも十分に耐え抜きます。4 シーター仕様ではセンターコンソール、5 シーター仕様ではセンターアームレストに収納しながら充電が可能です。リヤ装備レベルにより、標準装備またはオプション設定となります。

リヤシートエンターテインメント用アウディタブレットは、エクスクルーシブ性が高いだけでなく、高い堅牢性も持ち合わせています。10.1 インチのサイズを持つフル HD スクリーンには、NVIDIA プロセッサが組み合わされます。アウディタブレットは、Wi-Fi 経由で MMI ナビゲーションプラスおよびリヤシートリモートと通信します。ナビゲーションに目的地を入力できるほか、メディアを選択したり、Wi-Fi ホットスポットを使ったネットサーフィンを楽しんだりできます。アウディタブレットは、Google Play Store といった Android 環境にアクセスすることもできます。また、Wi-Fi 環境さえあれば、車両から取り外して持ち運びながら使うことも可能です。



お気に召すまま：新たな電話ソリューション

新型 Audi A8 では、電話操作がこれ以上ないほど簡単になります。2 台の携帯電話を接続し、交互に使用することができます。MMI ナビゲーションプラスには、4,000 件以上のアドレス帳情報を保存できます。4 シーターおよび 5 シーターともに、リヤシートには独立型オーディオフォンボックスを装着することができます。このボックスを介して、2 台のスマートフォンを車両アンテナとワイヤレス接続、最良の受信状態を作り出すことができます。Qi 基準に基づく非接触充電も可能です。リヤシートリモートオペレーティングユニットと組み合わせると、リヤシートにゆったりと着座しながら発話することができます。

高解像度 3D サウンド：バング&オルフセン ハイエンドサウンドシステム

新型 Audi A8 には、3 種類のサウンドシステムが設定されています。その頂点に君臨するのは、3D バング&オルフセン アドバンストサウンドシステムです。アンプ出力は 1,920W に達し、合計 23 個のスピーカーを効率的に制御します。ネオジム磁石が透明感溢れる高解像度サウンドを再生します。精密な穿孔加工が施されたアルミニウムエレメントがドアスピーカーベゼルを彩り、LED ライトガイドが白い光を放ちます。インストルメントパネルのレンズツイーターは、電氣的に上下します。これは、オーディオではおなじみの機能です。

A ピラーとルーフラインに組み込まれた 4 個のフルレンジスピーカーが奥行きや広がりを感じさせる高レベルの音作りに貢献し、オーディオがフロウンホーファー研究所と共同開発した方法論に基づく専用アルゴリズムがフルレンジスピーカーへのシグナルの演算を行います。Audi A8 のキャビンでは、コンサートホールでライブ録音されたサウンドがありのままの姿で再現されます。

さらに、DAB および DAB+用デジタルオーディオチューナーやデジタル TV チューナーもオプション設定されています。CI+モジュールにより、スマートカード経由で暗号化チャンネルを受信することも可能です。

室内にクリーンでフレッシュな空気を：エアクオリティパッケージ

新型 Audi A8 は、ドライバーと乗員に質の高い環境を提供します。オプションのエアクオリティパッケージを選択すると、室内の空気環境の品質がいっそう高まります。このパッケージには、エアコンディショナーシステムのアウトレットを介して、インテリア全域にフレグランスを行き渡らせる機能が含まれています。インストルメントパネルには、海の香りや山の空気を感じさせる 2 個の小瓶が隠されています。香りの強さは 4 段階に設定できます。パッケージにはさらにイオナイザーも含まれていて、室内の空気をマイナスイオン化します。マイナスイオンは、チリや埃などマイクロレベルの汚れを吸着、極小クラスターとしてフロアに落下するため、吸い込む危険がなくなります。

来年には、一部市場に向けに粒子測定センサーを導入する予定です。大気中の粒状物質レベルを特定し、Audi A8 インテリア内の値と比較します。オンボードモニターには、フィルター効率が表示されます。都市部のユーザーには重要な機能です。



標準装備のエアクオリティセンサーも、有害なガスを感知し、必要に応じて内気循環モードを起動させます。4ゾーンオートマチックエアコンディショナーのフィルターは、これらのガスや微粒子の大部分を除去し、多くのアレルギー誘発物質を中和します。

*この資料は、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。